

## 09 私の中の差別意識（同和問題）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラがお届けします。

10 夫の転勤で、あるまちに引っ越して来た女性は、しばらくしてそこが、いわゆる同和地区だということを知りました。今日は、この女性のお話をお聞きください。

15 【女性の独白】この地域に引っ越してきた当初は、右も左も分からない私に、近所の人や、買い物はどこが安いとか、小児科はどこにあるとか、優しく親切に教えてくれました。人のつながりや温かさに触れ、ここに引っ越してきて良かったと思っていました。

20 ところが、息子が通う幼稚園で知り合ったお母さんから、私が引っ越して来た地域が、同和地区だと知らされたのです。それ以来、住所を聞かれても、はっきり言うのをためらうようになりました。それだけではありません。今まで優しく接してくれていた近所の人に対する見方さえも変わってしまったのです。

そんな時、地域で人権に関する研修会が開かれることにな

25 りました。あまり気は進みませんでした。参加すると、同和地区出身の人が受けた、就職や結婚の際の差別体験の話がありました。

30 「子どもには自分のような辛い思いはさせたくない」という言葉で締めくくられた体験談を聞きながら、自分にも知らず知らずのうちに差別意識があったことに気づきました。そして、いまだに偏見や差別に苦しんでいる人がいることを改めて思い知らされました。

35 今、息子は近所の子どもたちと楽しそうに遊んでいます。子どもたちには、相手の住む場所や家柄など全く関係ありません。その姿を見て、将来、息子には人を差別するような人間になつてほしくないと強く思うようになりました。

40 差別をなくすには、正しい知識や情報を持つことが必要です。これからは、人権に関する研修会に積極的に参加しようと思つていきます。

45 (ナレーター) 部落差別をなくし、部落差別のない社会を実現することを目的とし、平成28年には、「部落差別の解消の推進に関する法律」が制定されました。

住んでいるところや生まれた場所によって差別されることは、あつてはなりません。